

助成年度：2021 年度

[所属] 香川大学 創造工学部

[役職] 講師

[氏名] 釜床 美也子

[課題]

「茅場」としての草原の保全と再生に向けた四国の「茅採取」の伝統技術の実態調査とその実証

[内容]

本研究の目的は、四国の「茅採取」の伝統技術を明らかにすることとその実証である。「茅採取」の伝統技術の工程を定量的に示し、図面化や図化により明確に記述することで、技術の継承、民間伝承の実証、「茅場」という観点から草原の保全や再生に寄与することを目指した。調査は、過去5年以内に屋根用資材としての利用を目的とする茅刈りが行われた四国内の茅場を対象とし、茅場と茅材に関するヒアリング調査を行った。また、茅刈りが実施されている茅場に加え、野焼きが継続的に行われている草原を対象に、茅場と茅材に関する定量評価を行った。ヒアリング対象先は四国山間部の計6件で、調査項目は茅場の維持管理・茅刈り・茅材の運搬・茅材の保管方法等である。茅場での茅や土壌の定量評価については、計9か所で実施した。各茅場と草原において、2m×2mのコドラートを3か所ずつ設置し、コドラート内の茅の様子を撮影し、株数と地面の傾斜角度の計測を行った後、鎌を用いて茅を刈り取り、茅の棹数と最長長さ、最短長さ、最長長さの地際直径、最短長さの地際直径の、5項目それぞれを計測した。コドラート内の土壌については、土壌硬度と土壌温度、EC、pHの4項目をそれぞれ計測した。その結果、茅場が適切に維持管理されるためには、茅の需要、人的資源（刈り手）、保管場所、茅場の維持管理と茅の乾燥や保管に関する知識（指導者）が、特に重要な要因となっていることが分かった。また、毎年刈り取りを行うことは、茅場に他の植物が混入するのを防ぐことにつながるだけでなく、良質な茅を得る手段であることが明らかになった。